

[成果情報名] 諫早湾干拓地における無加温ハウス育苗を活用したタマネギの2月定植技術

[要約] 諫早湾干拓地において10月下旬に播種、無加温ハウス内で育苗し、2月下旬までに定植することで、6条植で総収量8t/10aを確保できる。しかし、収穫時期がやや遅くなるため、梅雨時期と重なる可能性がある。

[キーワード] 諫早湾干拓地、加工業務用タマネギ、もみじ3号、2月定植、無加温ハウス育苗

[担当] 長崎県農林技術開発センター・干拓営農研究部門

[連絡先] 電話（直通）0957-35-1272

[区分] 総合・営農（干拓）・野菜

[分類] 指導

[作成年度] 2015年度

[背景・ねらい]

諫早湾干拓地ではタマネギの生産が盛んに取り組まれており、加工業務用（ソテー用）の多くは中生から晩生品種の「ターボ」や「もみじ3号」が主に栽培されている。「もみじ3号」の定植適期は12月上旬～中旬とされており、諫早湾干拓地は大規模営農が主のため、一時期に労働力が集中する。また、中晩生品種の育苗時期は台風のシーズンと重なるため、台風が直撃すれば、苗が確保できなくなる可能性も高い。

そこで、栽培条件が異なるが愛知県（豊橋市）で報告された無加温ハウスを活用した2月定植を参考に、諫早湾干拓地における労力分散及び台風対策のため2月定植の可能性を検討する。

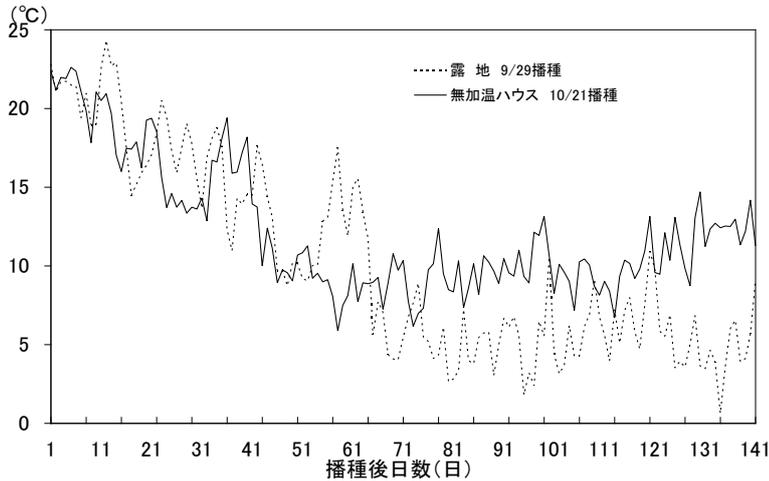
[成果の内容・特徴]

1. 10月下旬に播種した無加温ハウス内の日平均気温の推移は、適期に播種し露地育苗した場合の日平均気温と、播種後50日程度まではほぼ同じ傾向にあり、1ヶ月遅れても無加温ハウスを活用すれば、露地と同様な環境を再現できる（図1）。
2. 2月の定植時の苗の大きさは育苗期間がやや長いため、標準的な作型の苗よりも大きくなるが、定植に十分な苗を確保できる（表1）。
3. 10月下旬に播種しても、無加温ハウスで育苗し2月下旬までに定植すれば、総収量8t/10a確保でき、商品収量も概ね8t/10a確保できるが、収穫時期がやや遅れるため、梅雨時期と重なる可能性がある（図2、3）。

[成果の活用面・留意点]

1. 諫早湾干拓地（H14～H22）の平均月気温を愛知県豊橋市（H14～H23）と比較すると、無加温ハウス育苗時期の11月～1月は0.3～0.9℃低く、定植時期以降の2月～4月は0.3～0.8℃高い。定植時期以降の降水量は10～400mm 諫早湾干拓地がやや多い。
2. 各区とも24株3反復で、収穫調査は倒伏から1週間後を目安に実施した。
3. 本試験は6条植（条間15cm：株間10cm：栽植本数：40,000本/10a）で、施肥量N-27kg/10a（N-13.5kg/10a 硫安 N-13.5kg/10a：なたね油かす）での試験結果である。
4. 無加温ハウス（間口6m×長さ10m）はサイド自動開閉装置の温度設定を25℃とした。
5. 本データは加工業務用野菜栽培マニュアルに活用する。

[具体的データ]



耕種概要：黒マルチ栽培
 栽培品種：「もみじ3号」
 栽植本数：40,000本/10a
 (6条植：条間15cm 株間10cm)
 施肥量：N-27kg/10a
 (1/2：硫安 1/2：ナタネ油かす)

図1 育苗期間の日平均気温推移 (2014年)

表1 定植時の苗の大きさ (2015年収穫分の苗)

| 定植日 | 播種日 | 育苗日数 | 葉数(枚) | 草丈(cm) | 葉鞘径(mm) | 全重(g) | 備考 |
|-------|-------|------|-------|--------|---------|-------|--------|
| 12/15 | 9/29 | 77 | 3.1 | 27.3 | 6.0 | 2.9 | 標準的な作型 |
| 2/4 | 9/29 | 128 | 2.6 | 30.0 | 9.0 | 4.1 | |
| | 10/21 | 106 | 3.4 | 37.1 | 9.7 | 7.1 | |
| 2/13 | 9/29 | 136 | 2.7 | 26.5 | 8.8 | 3.2 | |
| | 10/21 | 114 | 3.6 | 36.5 | 9.2 | 6.9 | |
| 2/25 | 9/29 | 149 | 2.6 | 23.4 | 8.9 | 2.9 | |
| | 10/21 | 127 | 3.2 | 37.1 | 8.9 | 6.0 | |
| | 11/4 | 113 | 2.8 | 21.8 | 6.8 | 2.3 | |

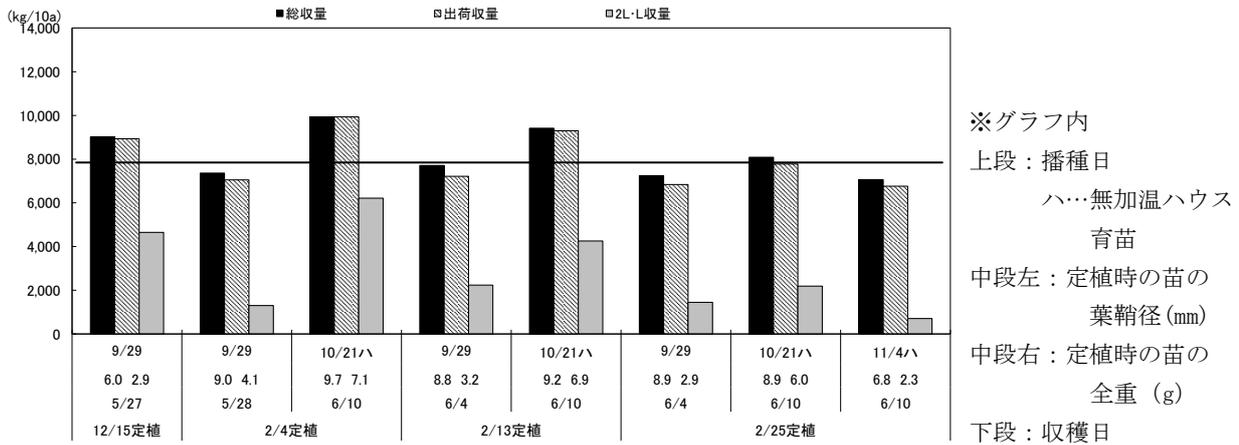


図2 収量比較 (2015年収穫)

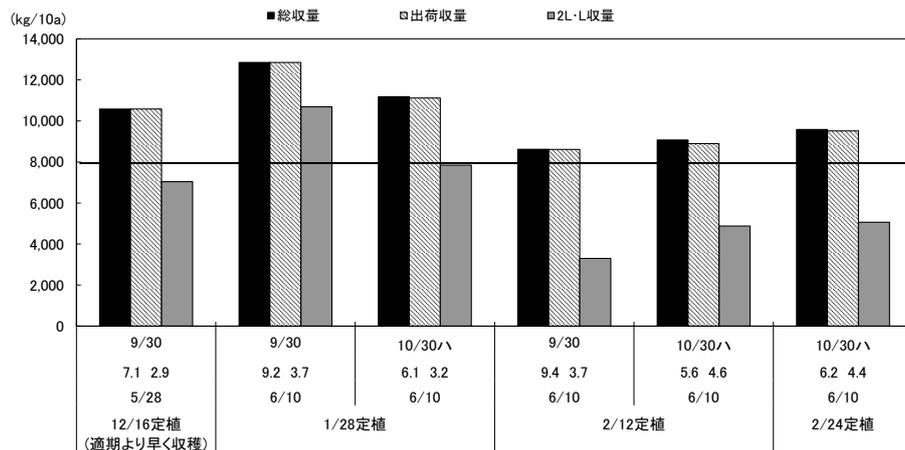


図3 収量比較 (2014年収穫)

[その他]
 研究課題名：
 ながさき加工・業務用野菜
 の生産技術確立及び特性
 解明、利活用法の開発
 予算区分：県単
 研究期間：2013-2015年
 研究担当者：平山裕介
 既発表論文等：なし